

亦之を知らず。土人は塔里木河口に在る湖澤を、一般に車克庫里又は喀喇庫爾井と稱し、即ち大湖の義なりと云ふ。

同湖は不規則なる楕圓形を成し、甚しく南西より北東に突出せり。幅約五里に過ぎざるが、長さ二十五、六里、湖面一般に蘆荻を生す。南岸に清澄なる一線の水路ありて淡水なるも、沿岸は總て鹹味を帶ぶる濁水にして、鹹水常に沸々として水面に浮び、其の狀恰も海面の波浪の如し。水深は水路の通ずる地點僅に一尺乃至六尺、濁水部は十尺以上の處あり。結氷は毎年十一月、融解は三月初旬とす。

湖中魚多く、又水禽多し。殊に春季鴨類の飛來するもの、實に人目を驚かすべきものあり、湖水一面玻璃と氷れる上、鴨類之を覆ひて、宛然塵芥を散布せしか如し。而して彼等一齊に空中に飛翔するや、一片の密雲、疾風に逢ふて走るかと怪まれ、一時は日光を蔽遮し盡し、其の響俄に暴風の起れるに似たり。然れども、斯く彼等の飛遷する時期は、極めて短く、凡そ二週間餘に過ぎずと云ふ。

湖水の東北、沙漠地を除く外、一帶の地敢て肥沃ならずとせざるも、羅布淖爾の住民は、之を耕さんともせず、唯、僅に湖魚を捕獲するの他、何等の生計を營まず。往時